

## 再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：木村 昌司

事業名	一般国道23号 知立バイパス		事業区分	地域高規格	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：愛知県安城市城ヶ入町 至：愛知県豊明市阿野町		延長	16.4 km		
事業概要	<p>一般国道23号知立バイパスは、安城市城ヶ入町を起点とし、豊明市阿野町に至る延長約16.4 kmの道路で、名古屋都市圏と豊橋浜松間を結ぶ地域高規格道路：豊橋浜松道路の一部区間を形成します。知立バイパスは、交通需要の増加への対応、幹線道路の交通混雑緩和（国道23号）及び沿線地域の開発と振興支援を目的として事業を推進しています。</p>					
S 47年度事業化	S 47年度都市計画決定	S 48年度用地着手	S 48年度工事着手			
全体事業費	約570億円	事業進捗率	73%	供用済延長	8.0 km	
計画交通量	57,300台/日					
費用対効果分析結果	B/C 事業全体 3.5 残事業 9.4	総費用 206/760億円 事業費：125/679億円 維持管理費：81/81億円	総便益 1,932/2,697億円 走行時間短縮便益：1,771/2,638億円 走行費用減少便益：117/30億円 交通事故減少便益：44/29億円	基準年	平成18年	
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑なモビリティの確保（幹線道路の交通混雑緩和・解消）</li> <li>国土・地域ネットワークの構築（アクセスの改善）</li> </ul> <p style="text-align: right;">他 11項目に該当</p>					
関係する地方公共団体等の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元9市7町で構成される名豊道路建設推進協議会が早期整備を要望。</li> </ul>					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通需要の増加</li> <li>沿線地域の土地利用の変化</li> <li>自動車関連産業の進出</li> </ul>					
事業の進捗状況、残事業の内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業進捗率は73%、用地取得率は100%（平成18年度末見込み）。</li> <li>西中IC～野田IC間（L=1km）について、平成18年度に高架4車線化供用を開始。</li> <li>野田IC～芦池IC間（L=1.9km）について、橋梁部の上部工工事を実施中。</li> <li>芦池IC～和泉IC間（L=3.9km）について、立体化工事を平成17年度より着手。</li> </ul>					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	<ul style="list-style-type: none"> <li>野田IC～芦池IC間（L=1.9km）については、平成20年度に4車線開通予定。</li> <li>芦池IC～和泉IC間（L=3.9km）については、平成21年度に高架暫定2車線化開通予定。</li> <li>残る区間については概ね10年での4車線化を目標に事業を実施。</li> </ul>					
施設の構造や工法の変更等	<ul style="list-style-type: none"> <li>連続高架橋の構造形式の見直し（主桁本数の少数化構造の採用、連続高架の橋梁区割りを多径間に見直し）によりコスト縮減を図っています。引き続きコスト縮減に努めながら、現計画に基づいて事業を推進する。</li> <li>代替案として考えられる国道23号拡幅は、沿道状況より不可能であり、計画変更は困難。</li> </ul>					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の点を勘案し、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。